

令和元 年度 第3回四万十市子ども・子育て会議 議事録

- 【日 時】 令和元年 11 月 29 日（金）午後 1 時 30 分～
- 【場 所】 四万十市役所 3 階 防災対策室
- 【出席委員】 8 名
國久準、刈谷隆子、須山美樹、岡俊二、山沖優子、吉藤幸美、岡村道代、宮本ルミ
- 【欠席委員】 6 名
武市千草、宮地敏彦、高松聡美、宮崎由紀子、福留久美、山崎かおり
- 【事務局】 10 名
子育て支援課 西澤課長、竹本補佐、阿部企画係長、田村保育係長、名本支援係長
今上
健康推進課 中田補佐、生涯学習課 戸田補佐、福祉事務所 平地係長
（株ぎょうせい 渡辺

1 開会

◇進行—竹本補佐

(1) 会長挨拶

(2) 会議の成立

- ・子ども・子育て会議条例第 6 条第 2 項に基づき会議の成立を報告。

(3) 進行の交代

- ・子ども・子育て会議条例第 6 条第 1 項に基づき会議の進行を会長に交代。

2 議事等

(1) 第 2 期子ども・子育て支援事業計画に係る取り組み内容の取りまとめについて（資料①）

- ・事務局（企画係長）より資料①を基に実施状況の取りまとめ状況について説明、報告。

<主な説明内容>

- ・資料①は関係各課の取り組み内容を集約したものとなっており、今後の方針など第 2 期計画の素案に反映している。
- ・実行できていない項目など、現在の取り組み内容や今後の方向性をすり合わせたうえで素案の見直しをしている。

(2) 第 2 期子ども・子育て支援事業計画について（資料②）

- ・事務局（企画係長）より資料②、補足資料を基に素案の説明。

<主な説明内容>

- ・p 1～p 15 は前回の子ども子育て会議で承認をいただいた内容。意見のあった部分も踏まえて再度精査した。文章の中で青は削除、赤は追加した部分となっている。
- ・p 24、教育・保育提供区域を 2 地域としていたが、前回会議で協議したように施策については一体的な取り組みをしており、p 25 以降は全て 1 区域として表示している。
- ・p 29 以降、新・放課後子ども総合プランにおいては小学 1 年から 6 年生までの見込みを出すことになっており、低・高学年の区分を各学年に変更した。
- ・p 37、ファミリーサポートセンター事業で病児・病後児の預かりも取り組んでいるところである

- が、病児病後児保育事業についてもニーズはあり、今後量の見込み等を掲載する予定。
- ・ p 40 以降の構成について資料②補足資料も合わせ、各項目、取組内容の説明。

■出された意見等

会長	事務局の説明に対して何か意見はないか。
委員	<p>意見になるが、p 44、第 4 節の現状と課題のところ、20 代 30 代の女性の就労率が上がっているとある。過去 5 年間施策を打っているが、そのことが色んな意味で反映されているのか疑問に感じる。</p> <p>また、(1)「○効率的な教育環境の整備」のところ適正規模の再編に取り組むとある。市内の小学生の学力が上がっていると聞くと、児童の多い学校の平均点を周辺の小規模校の平均点が上げているように学校関係者から聞いたこともある。効率だけで再編すると子どもにしわ寄せがいくのではないか。</p> <p>p 46 (4) 一つ目の「○子育てにやさしい施設の推進」について、県外の量販店に子どもだけで行けるトイレを見た。アピアにカドルファミリーが運営する「とことこ」もあるが、トイレは遠い。複合施設の計画もある中でこういったことも感じた。</p>
事務局（企画係長）	<p>M字カーブに関しては経済的な問題が多いと思っている。女性が働かなくてはいけない状況をベースに、いかに心豊かに仕事をしながら子育てをしていくかということを考えて盛り込んでいきたい。ワークライフバランスの啓発もしていきたい。</p> <p>学校の再編に関しては回答できないが、小規模校であっても今の環境が少しでも良くなるよう、次のステップに繋がれるように考えているところ。</p> <p>トイレに関して、ニーズ調査でも市内に子どもを連れて行ける店が少ないとの回答が多かった。事業者に働きかけるのは難しいが、そのような機運を高めることが大事ではないかというところ。そのような内容も入れることを検討したい。</p>
事務局（企画係長）	<p>M字カーブに関しては就労しないといけない状況がある。子育ての環境だけでなく、雇用、住環境など様々な要因で人が集まってくる。概要の中で触れているように、住みよさランキングの安心度や利便性で四万十市は上位にあるが、所得や財政力指数などの富裕度はかなり下位で、雇用、経済政策もやらないといけない。</p> <p>学校の再編に関連して、学力の各校の平均点は分らないが、保護者は数値を知っており、市の平均値と比較できる状況だとは思われる。</p> <p>キッズスペースについての文言については検討させていただきたい。</p>
委員	<p>M字カーブは実績でも企業等への啓発、広報の推進を実行していないということで、実際働かなければならない親を責めているわけではない。中小企業が多いなかで、雇用主が意識をもって男性も育児休暇が取れるような啓発を市の方でもやっていくべきかなと思う。</p>
会長	その他はないか。
委員	子ども家庭総合支援拠点はどこに整備するのか。
事務局（企画係長）	<p>どこの部署になるのかは福祉事務所、子育て支援課、健康推進課の 3 課で検討中となっている。来年度、所属する課を決定して再来年度から設置をする方向で進めているところ。</p>
委員	<p>LGBTがよく話題になっているが、そのような精神的なフォローなどはどこの部署なのか。小さい時から自分を受け入れるのに困ったりする。</p>

事務局（企画係長）	現在市の方では具体的な取組みはしていない。人権教育の研修会はあるが相談窓口はない状況。また内部の方では問合せをしながら考えていきたい。
委員	p 4 9（3）に「障害の早期発見」とあるが、保育所と学校の連携は取れるようになっているか。机に座れない子どもも多く、教育相談が出来る医療機関も近くにない。
事務局（保育係長）	今でも保育所から学校の先生に引継ぎをしており、保幼小の連携も強化している。小学校に上がるまでにここまで成長はさせたいというような取り組みもしているが、更に強化しないといけないとは思っている。
会長	県教委から年長保護者あてにパンフレットが来た。情報の連携については保護者の了解がないとできない。我が子の障害を受け入れないことは往々にしてある。支援が必要な子どもを有する家庭を皆で支えるような環境、一人にさせないようにすることが大事。
会長	その他はないか。 ～意見なし～
会長	特段意義もなかったが、この素計画については承認ということで良いか。 ～意見なし～

(3) 子ども・子育て支援事業計画策定に係るパブリックコメントの実施について（資料③）

- ・事務局（企画係長）より資料③を基に説明。
- ・12月中頃からHP、冊子の閲覧により1カ月間の予定で市民の皆さんに意見をもらう。

(4) 公私連携型保育所等整備・運営事業実施候補者の選定について（資料④）

- ・事務局（保育係長）より資料④を基に審査結果、今後の予定を説明。

(5) その他

① 子ども子育て検討会の開催について

- ・事務局（企画係長）より説明。
保育関係者、保護者、子どもに関する取組をする団体に案内して計画について意見交換をもらう。

② 次回の開催予定について

- ・事務局（企画係長）より説明。
パブリックコメント後の計画の最終版を提示する予定。

③ その他 副食費について

■説明内容

事務局（子育て支援課長）	保育所の副食費を徴収するのは幡多郡では四万十市のみとなっているが、国の制度では原則取ることになっている。殆どのところは独自に出していた施策を副食費に充てている。四万十市は試算で年間2,600万円の持ち出しが必要になり、慎重な議論が必要。無償化は消費税増税に伴うものであるが、国の方でも補正を組むような状態で制度設計自体が大丈夫だったか、なぜ副食費だけ残したのかも疑問になっている。この件は市長会等を通じて国の方に訴えたり、独自に検討もしていくべき事項だと認識している。また意見があれば頂きたい。
--------------	---

3 閉会

その他意見なく閉会となる。